



持続可能な医療・健康システムの構築を志向した コミュニティセンター活動をコアとする看護学実習

医学部 教授 伊藤 智子

人口及び疾病構造の変化や人々の価値観の多様化また療養の場の多様化などから、地域の人々の健康課題は複雑になり、個別課題のみではなく地域課題の解決能力も看護職に求められるようになりました。

島根大学医学部看護学科では、「地域の人々の暮らしや環境と健康の関連」を考える実習を行い、健康な地域づくりの視点を持った「地域に強い看護職」の土台作りを行いたいと考え、2022年度から1年生を対象とする「早期地域看護学実習」を開始しました。この実習は、学生が小グループで出雲市のコミュニティセンターに出向き、その地域の環境や歴史・文化について話を聞いたり、またその地域で暮らす人々と交流し、人々の暮らしと健康の関連を学習することを主眼に置いています。また、様々な健康課題を持つ人々と接することで、これから看護を学ぶ者としての態度形成にも役立ち、本格的な看護の学習の礎になると考えています。

本学科ではこの実習を基盤として、障害をもっていても住み慣れた地域で暮らせるような支援能力を身に付け、持続可能な医療・健康システムの構築に寄与できる人材育成を目指したいと思います。

